

現代中国語における名詞の時間性

袁 曉 今

1. はじめに

従来、一般的な考え方では、名詞は「時間の経過と関係がない (Givon 1984: 51)」、「行為の流れを超越して行為全体をひとまとめにして表す (Langacker 1991: 24-25)」、「空間性」を有する概念 (沈家煊2006: 5) とされる。しかし、本稿は、現代中国語においては、本来動詞の持つカテゴリーである「時間性」をある程度有する名詞があることを指摘し、それらについて系統的に考察するものである。

現代中国語における「名詞の時間性 (temporality)」を全面的に考察するにあたっては、名詞自体が比較的顕著な時間性を有する「狭義的時間性」と名詞内部に隠れた時間性の概念を含む「広義的時間性」に分ける必要がある。本稿ではまず、その点を提唱しておきたい。

「狭義的時間性」とは、「指示している事物や概念が時間の推移に伴って、プロセスを展開していくことを指す。ここでいうプロセスは起点、中間経過、終点より構成される。」(張斌2010: 86)「狭義的時間性」の有無という基準で、名詞を以下の二種に大別できる。

A モノ名詞 (entity noun)

具体的あるいは抽象的な個物を表す名詞である。時間性を持たない。

例：水、手表 (腕時計)、语言学 (言語学)

B デキゴト名詞 (event noun)

行為や出来事を表す名詞である。時間性を持つ。

例：雨、战役 (戦役)、音乐会 (コンサート)

次に、「広義的時間性」については、以下の4つの観点を取り入れる必要があると考えている。

(1)時間詞

(2)時間順序の概念を内包する名詞

(3)動作主名詞

(4)時間の概念が隠れているその他のモノ名詞

それでは、「狭義的時間性」に分類されるデキゴト名詞 (2.1)、「広義的時間性」に分類される時間詞 (2.2)、時間順序の概念を内包する名詞 (2.3)、動作主名詞 (2.4)、時間の概念が隠れているその他のモノ名詞 (2.5) という順に時間の概念と関わりのある名詞を考察して行く。

2. 時間の概念と関わりのある名詞総覧

2.1 デキゴト名詞

2.1.1 分類

韓蕾 (2018: 63) では、最も典型的な中国語の「事件名詞 (デキゴト名詞)」には以下の15種類があると列挙した。同時に、「この分類では、境界線が不明であるという指摘を受けた」とも述べている。例えば、「音乐会 (コンサート)」は「会合」と「娯楽」のどちらとも捉えることができる等である。

本稿の主旨はこの分類を正すことが目的ではないため、分類基準はそのまま韓蕾 (2018) に準拠したが、語例に関しては、三字以上の複雑複合語も取り入れて、原文と異なる例もいくつか取り入れた。

(1) 【自然・気象】類

a 雨 b 雷 c 霧 (霧) d 冰雹 (雹/霰) e 雪崩 f 寒流
g 闪电 (稲妻) h 梅雨 i 日食 j 暴风雪 (大吹雪)

(2) 【戦争】類

a 仗 (戦い) b 战争 (戦争) c 战役 (戦役) d 战斗 (戦闘)
e 战火 (戦火) f 细菌战 (細菌戦) g 游击战 (ゲリラ戦)
h 南北战争 (南北戦争) i 贸易战争 (貿易戦争) j 世界大战 (世界大戦)

(3) 【災害】類

a 灾害 (災害) b 灾难 (災難) c 火灾 (火災) d 地震 e 天灾 (天災)
f 饥荒 (飢饉) g 车祸 (自動車事故) h 病虫害 i 交通事故

j 泥石流（土石流）

(4) 【会議・会合】類

a 会议（會議） b 宴会 c 舞会（ダンスパーティー） d 学会
e 运动会（運動会） f 奥运会（オリンピック） g 音乐会（コンサート）
h 研讨会（シンポジウム） i 春节晚会（春節の集い） j 故宫博物院

(5) 【試合】類

a 比赛（試合） b 竞赛（競技） c 预赛（予選） d 决赛（決勝）
e 径赛（トラック競技） f 锦标赛（選手権大会） g 足球赛（サッカーの試合）
h 公开赛（オープン戦） i 友谊赛（親善試合）
j 演讲比赛（スピーチコンテスト）

(6) 【娯楽】類

a 京剧（京劇） b 魔术（手品） c 小品（コント） d 喜剧（喜劇）
e 杂技（雜技） f 相声（中国漫才） g 小合唱（十人程度の合唱）
h 交响乐（交響曲） i 电视剧（テレビドラマ） j 纪录片（ドキュメンタリー）

(7) 【文化・体育】類

a 体操 b 排球（バレーボール） c 马术（馬術） d 象棋（将棋）
e 气功（気功） f 秧歌（中国の民間舞踊の一種） g 交谊舞（社交ダンス）
h 太极拳（太極拳） i 健身操（エアロビクス） j 狮子舞

(8) 【飲食】類

a 饭（食事） b 晚餐 c 便饭（手軽な食事） d 快餐（ファストフード）
e 间食（間食） f 喜酒（結婚祝賀の宴） g 早茶（朝に取るお茶と軽食）
h 国宴（国賓を招待する宴会） i 团圆饭（一家団欒の食事）
j 工作餐（勤務中に与えられる簡単な食事／弁当）

(9) 【式典】類

a 典礼（式典） b 仪式（儀式） c 婚礼（結婚式） d 葬礼（葬式）
e 法事 f 开幕式（開幕式） g 阅兵式（閱兵式） h 开业典礼（開業式）
i 毕业典礼（卒業式） j 登基大典（即位式）

(10) 【夢】類

- a 梦 (夢) b 睡梦 (深い眠り) c 迷梦 (妄想) d 噩梦 (悪夢)
e 怪梦 (変な夢) f 春梦 (夢い夢) g 白日梦 (白昼夢)
h 美梦 (実現しない夢) i 发财梦 (金儲けの空想) j 黄粱美梦 (短い夢)

(11) 【疾病】類

- a 病 b 癌 c 鼻炎 d 轻伤 (軽傷) e 心病 (悩み)
f 流感 (インフルエンザ) g 新冠 (コロナ) h 心脏病 (心臓病)
i 抑郁症 (鬱病) j 荨麻疹 (蕁麻疹)

(12) 【試験】類

- a 考试 (試験) b 科举 (科挙) c 高考 (大学入試) d 小考 (学期中の試験)
e 统考 (統一試験) f 体检 (身体検査) g 小测验 (小テスト)
h 期中考试 (中間テスト) i 智力测验 (クイズ) j 心理测试 (心理テスト)

(13) 【課程】類

- a 课 (授業) b 课程 (課程) c 讲座 (講座) d 夜校 (夜間学校)
e 专业课 (専門科目) f 中级班 (中級クラス) g 选修课 (選択科目)
h 语文课 (国語) i 体育课 (体育の授業) j 汉语学习班 (中国語教室)

(14) 【休日】類

- a 节日 (祝日) b 假日 (休日) c 假期 (休暇) d 寒假 (冬休み)
e 病假 (病気休暇) f 产假 (産休) g 生日 (誕生日) h 母亲节 (母の日)
i 国庆节 (国慶節) j 国际禁烟日 (国際禁煙デー)

(15) 【その他】

- a 贸易 (貿易) b 家务 (家事) c 夜班 (夜勤) d 月经 (月経)
e 误会 (誤解) f 讲话 (講話) g 酷刑 h 官司 (訴訟)
i 婚事 (縁談) j 总统大选 (大統領選挙)

2.1.2 文法特徴

袁晓今 (2013: 61) では、「*昨天的手表 (昨日の腕時計)」と「昨天的雪崩 (昨日の雪崩)」の例を挙げ、Pustejovsky (1995) の「クオリア構造」を用い

て、モノ名詞とデキゴト名詞の基本的な違いを説明した。これを再録した上で、「草」と「会议（会議）」の例を加え、更に詳しく解説する。

モノ名詞

形式役割
構成役割
目的役割
主体役割

手表（腕時計）

人工物（機械）
機械＋文字盤＋ベルト
時刻を計る
製作する

草

天然物
根＋葉
無
自然生長

デキゴト名詞

形式役割
構成役割
目的役割
主体役割

雪崩

自然現象
雪
無
崩れ落ちる

会议（会議）

イベント
議案＋議論のプロセス
決議する
開催する

モノ名詞には人工物と天然物の2種類がある。「主体役割」、つまり、対象物がどのように生まれたかという情報には、それぞれ「人間によって作られる」、「自然生長」の2通りしかない。言い換えると、「主体役割」はモノ名詞に関しては、さほど重要な意味情報を提供していないということになる。

一方、デキゴト名詞は様々な形で「発生する」、「行われる」ことによって、初めて成立するという観点から、デキゴト名詞は「主体役割」によってその意味規定が明確になると言うことができる。

モノ名詞とデキゴト名詞を一文字で表すと、それぞれ「物」と「事」である。前者は形のある具体物で、いつでも同じ機能や性質を保って存在し、刻一刻姿を変えることはない、あるいは変化しにくい。一方、後者は抽象化された事象で、実際の発生を意味し、時間の流れにつれて、変化していくと捉えられる。それゆえに、時間と関連する文法特徴を以下の通り多数有している。

(1) 「名量詞」、「動量詞」、「時量詞」と組合わせることができる。

「名量詞」は、日本語の助数詞に相当する品詞で、数詞と組んで「数量名」という形で名詞を数える。例えば、「一张紙（一枚の紙）」の「张」。

「動量詞」は、数詞と組み合わせて動詞の後に置き、動量補語を形成し、動作の回数や期間を表す品詞である。例えば、下記の「下」、「場」、「頓」。

- 1 他敲了一下门。(彼はドアを1回叩いた)
- 2 这周下了两场雨。(今週は雨が2度降った)
- 3 一天吃三顿饭。(一日三食ご飯を食べる)

本来、「動量詞」はその名の通り、動詞の量詞として、動詞の後に置き、動詞を修飾・補足説明しているのであって、動詞の後の目的語名詞を修飾している訳ではない。例1においては、動量詞「下」は動詞「敲」を表す「叩く」動作の回数、長さを表現しているもので、目的語名詞「门(ドア)」との修飾関係にはない。

- 4 *一下门(*1回のドア)
- 5 两场雨把他辛勤培育的秧苗都浇蔫了。
(二度の雨は、彼が苦勞して育てた苗を枯れさせた)
- 6 三顿饭就让她胖了一公斤。(三食の食事で彼女は1キロ太った)

しかし、上記の例文5、6においては、それぞれの動詞「下(降る)」と「吃(食べる)」が見当たらない。あたかも後ろの名詞「雨」と「飯(食事)」の連体修飾語に見える。一方、4においては、文にすらなっていない。この点については、もとの動詞が隠れていると解釈するのではなく、後程論述するが、「名詞のタイプの差が文法機能の違いをもたらした」ことが明らかになる。

「時量詞」は後に2.2で述べる通り、時間の長さを表す時間詞である。「動量詞」と同じように、動作や状態の持続時間を表すため、動詞の後ろに置く。例えば、下記「分钟」と「天」は時量詞であり、それぞれ動作「叩く」と「する」の長さを計っている。

- 7 我敲了一分钟的门。(私は一分間ドアを叩き続けた)
- 8 我做了一天的家务。(私は一日家事をしていた)
- 9 *一分钟的门(*1分間のドア)
- 10 一天的家务把我累得腰酸腿疼。(一日の家事で疲れて、全身が怠い)

「動量詞」のケースと同様に、例9は成立しないが、例10は正しい文とされる。やはり、名詞が鍵を握っていると考えられる。次に、デキゴト名詞の特殊性を見てみる。

A モノ名詞は「名量詞」としか組み合わせることができない。例：

一个人（一人の人） 一把伞（一本の傘） 一台机器（一台の機械）

B デキゴト名詞は「名量詞」より、むしろ「動量詞」や「時量詞」と組み合わせることが多い。例：

一滴雨（一滴の雨） 一场雨（一回の雨） 一天的雨（一日の雨）
一种病（一種の病気） 一场病（一回の病） 一年的病（一年の病）
一个考试（一つの試験） 一次考试（一回の試験） 十分的考试（十分の試験）

デキゴト名詞は出来事や動作、活動を表し、名詞ではあるものの、どちらかという、動詞に近い性質、即ち時間の流れとともに変化する性質を備えている（影山2011: 42）。従って、動詞が無くても、時間性を有するデキゴト名詞は「動量詞」、「時量詞」と直接結びつくことができる。

(2)以下の動詞と組み合わせることが多い。

开始、进行、结束、发生、出现、持续、举行…

- 11 会议下午一点半开始，持续了四个多小时，终于在六点半结束了。
(会議は午後1時に始まり、4時間余り続き、やっと6時半に終了した)
- 12 婚礼正在进行，不时从里传出口哨声，定是在为难一对新人互相亲吻。
(結婚式は進行中。時々中から口笛が聞こえてくる。きっとみんなが新郎新婦にキスをするようからかっている)
- 13 火灾发生后，消防人员火速赶到了现场。
(火災発生後、消防隊員がすぐに現場に駆け付けた)
- 14 明天傍晚，北方大部分地区都将出现雨雪天气。
(明日夕方、北部地域の大半に雨と雪が降る (出現する))
- 15 下届万博将于二〇二五年在大阪举行。
(次の万博は2025年に大阪で行われる予定である)

(3)空間性のみを表す方位詞を後接せず、空間性と時間性を兼ね備えている方位詞と共起する。

*雨^上 雨^后 *考试^东 考试^前 *假期^旁 假期^里 / ^中 / ^{里头} / ^{当中}…

- 16 梅雨之^后是酷暑在等待着我們。
(梅雨の^後は猛暑が待っている)
- 17 为了缓和高考^前的紧张，她妈妈带着她去了一趟游乐园。
(大学入試^前の緊張を緩和するため、母親は彼女を遊園地に連れて行った)
- 18 假期^里从中国来了两个朋友。
(休暇^中に中国から2人の友達が来た)
- 19 他在梦^中回到了故乡。
(彼は夢の^中で帰省した)
- 20 病^{里头}借此消磨时光。
(療養^中に、これで時間を潰す)
- 21 如果发现比赛^{当中}服用兴奋剂，将取消该选手今后两年的竞赛资格。
(試合^中に選手のドーピング行為が発覚したら、その選手はその後2年間、試合参加資格を取り消される)

(4)以下の時間を表す名詞と共起する。

时、时间、时候、期间、时期、当天…

- 22 期中考试^时不许查词典。
(中間テストの^際に辞書で調べてはならない)
- 23 午餐^{时间}不得在食堂占座。
(昼食の^{時間}には、食堂での席どりは許されない)
- 24 毕业典礼的^{时候}穿的那件旗袍已经送人了。
(卒業式の^時に着ていたチャイナ服はもうほかの人にあげた)
- 25 游人在两会^{期间}去天安门必须接受行李检查。
(観光客は「两会(全国人民代表大会・中国人民政治協商會議)」^{期間}中に天安門に行く際には、荷物検査を受ける義務がある)
- 26 战争^{时期}根本买不到这种东西。
(戦^時にはこのようなものは全く手に入らない)

27 体检当天因为要验血所以不能吃早饭。

(身体検査当日は血液検査があるため、朝食を食べてはならない)

(5)モノ名詞とデキゴト名詞の両方の意味を持つ多義語に関しては、動量詞によって使い分けられるが、時間詞を要求する場合は出来事名詞と捉える。

日本語については、影山 (2011: 36, 41) では、以下の二つの例文を挙げ、「～にモノ名詞が」と「～でデキゴト名詞が」の組み合わせ (28a、28b) を入れ替えると非文 (28a'、28b') となると述べた上で、日本語学習者はこの点についてよく間違えるという。そして、日本語の教育現場では、これを単に格助詞の間違いと見なしがちであるが、実はモノ名詞とデキゴト名詞の違いから生じる問題であると指摘している。

28a あそこにに会議室がある。 (那儿有个会议室。)

28b あそこでで会議がある。 (? 那儿有个会议。)

28a' *あそこで会議室がある。

28b' *あそこに会議がある。

しかし、現代中国語においては、格助詞がないため、モノ名詞とデキゴト名詞の違いは日本語と異なる形で現れる。これについて、以降論述するに先立って、「多義性」について触れておく必要がある。

名詞によっては、モノ名詞としての意味とデキゴト名詞としての意味を併せ持つ、多義性 (polysemy) を備えている場合がある。例えば「足球」は、モノ名詞の「サッカーボール」を指す場合と、「スポーツとしてのサッカー」、「サッカーゲームや試合」を指すデキゴト名詞の場合がある。

まず、両者の「足球」のクオリア構造を見てみる。その上で、「足球」を例に、中国語のデキゴト名詞が構文上どのように時間性を表現しているのかを観察してみる。

足球 (モノ名詞：サッカーボール)

形式役割
構成役割
目的役割
主体役割

ボール
革
蹴る
作る

→名量詞【个】を使用する

足球 (デキゴト名詞: サッカーゲーム)

形式役割	{ スポーツ プレーヤー+ルール 運動する/勝負する 蹴る/プレーする/試合する →動量詞【場】を使用する
構成役割	
目的役割	
主体役割	

- 29a ? 那儿有足球。(? あそこにサッカーボール/あそこでサッカーの試合がある)
- 29b 那儿有一个足球。(あそこに一つのサッカーボールがある)
- 29c ? 那儿有一场足球。(あそこで (一つの) サッカーの試合がある)
- 29d 今晚那儿有一场足球。(今夜あそこで (一つの) サッカーの試合がある)
- 29e 今晚有一场足球。(今夜 (一つの) サッカーの試合がある)
- 29f 今晚有足球。(今夜サッカーの試合がある)

「足球」は多義性の典型的な例で、例文29aの「足球」は「サッカーボール」なのか、「サッカーの試合」なのか、それだけでは判然としない。bのように、名量詞「个」を使うと、モノ名詞の「サッカーボール」であると分かる。cのように、動量詞「場」を使うと、デキゴト名詞の「サッカーの試合」であると判明する。しかし、場所指示代名詞のみのcはやや不安定で、dのように時間詞の「今晚」を付け足すと、より安定する。また、eのように、場所の「那儿」を外して、時間詞の「今晚」だけにしても十分成立する。更に、fのように、数量詞を外しても、時間詞が備わっているだけで、この「足球」は「サッカーの試合」を意味することになる。これは、中国語のデキゴト名詞が時間性を有することを物語っていて、文法特徴として構文にもそれが現れていることが分かる。

次に、例文30においては、例えば、野球のバットやグローブを作る職人がいるように、例えば、サッカーボールにも作り手の名人がいるという前提があり、その前提がコンテキストとしてaの前後にある場合なら、aも成立するが、そうでなければ、成立しない。一方、bは動量詞の「場」を用いると、開始から終了までの「一回」や「一度」の意味が生まれ、デキゴト名詞の「試合」や「ゲーム」と捉え、「踢(蹴る/プレーする)」が無くても、サッカーをプレーすることを約束したと理解される。つまり、cと同等の意味を持つことになる。ところが、dは動量詞の「場」の助けを借りなくとも、時間詞「今晚」を導入するだけで、bやcと同じような

意味が生まれる。また、「今晚」のような時点を表す時間詞だけでなく、eの「两个小时（2時間）」などの時間の長さを表す時間詞（「時量詞」）でも構文を成立させることになり、デキゴト名詞の「プレー」としての意味機能を果たす。

- 30a ※我跟他约了一个足球。（※私は彼と（一つの）サッカーボールを約束した）
 30b 我跟他约了一场足球。（私は彼と（一度の）サッカーゲームを約束した）
 30c 我跟他约了踢足球。（私は彼とサッカーをプレーすると約束した）
 30d 今晚我跟他约了足球。（今晚私は彼とサッカーゲームを約束した）
 30e 我跟他约了两个小时的足球。（私は彼と2時間のサッカーゲームを約束した）

29、30の例文による考察を踏まえ、モノ名詞とデキゴト名詞を兼任する語は「動量詞」や「時間詞」と共起する場合には、デキゴト名詞としての意味を表す。言い換えると、中国語のデキゴト名詞は動量詞、または、時間詞を要求する。このことから、デキゴト名詞が顕著な時間性を持っていることの裏付けが取れたとすることができる。更に一步踏み込んで、言語学の標準的な考え方では、文の要は動詞であり、動詞の意味構造が構文成分の現れ方を決定すると思われてきたが、以上の分析から、デキゴト名詞の意味情報が構文に大きく貢献することが明らかになったと言える。

2.2 時間詞

現代中国語では、時間順序を表す「時間詞」は名詞の下位分類の一つであり、その主な文法機能は述語動詞の前後に置き、述語動詞を修飾することである。以下のAの時間詞は「時点（time point）詞」と呼び、述語動詞の前に置き、連用修飾語として（例文31を参照）述語動詞を修飾するが、Bの時間詞は「時量（time interval）詞」と呼び、述語動詞の後に置き、補語（例文32を参照）として述語動詞を修飾する。

A 時点（time point）

- a 過去 过去（過去） 昨天（昨日） 上周（先週） 上个月（先月） 去年
 b 現在（主観的） 现在（現在） 今天（今日） 这个星期（今週）
 这个月（今月） 今年 此时（今） 此刻（この時）
 c 現在（客観的） 二十一世纪（21世紀） 二〇二〇年 十月 十八日

- 星期日(日曜日) 早上(朝) 八点半(8時半) 下半年(下期)
秋天/秋季(秋) 第三季度(第3四半期) 下旬 月末
期中(年度の中間) 十一(10月1日国慶節) 初四(旧暦の4日)
d 未来 将来(将来) 明天(明日) 下周(来週) 下个月(来月)
后年(再来年) 今后(今後)

B時量 (time interval)

- e 一秒钟(1秒間) 两分钟(2分間) 三个小时(3時間)
四天(4日間) 五个晚上(5夜) 六个星期(6週間)
七个月(7か月) 八年(8年間) 九个世纪(9世紀の間)
半个季度(15日間)

- 31 我每天十点睡。(私は毎日10時に寝る)
32 我每天睡十个小时。(私は毎日10時間寝る)

しかし、これらの時間詞は述語動詞の修飾語に充当するだけではない。現代中国語においては、名詞述語文が少数であるが、確かに存在する。述語になれる名詞は「年齢」、「時間」、「数量」など極わずかな意味範疇に限られているが、上記の時間詞のcとeについては、述語に適格であるとされている。

また、中国語の「了」は動作の完了を表すアスペクト助詞「了1」と状態の推移を表す語気助詞「了2」があり、いずれも時間の概念と関連がある。時間の概念が関与していない名詞には、例えば、「椅子」、「思想」、「世界」には「*椅子了」、「*思想了」、「*世界了」と「了」をつけることができない。

上記のc、eグループの時間詞の後に助詞「了」をつけると、時間の変化を表し、「…の時間となった」と訳す。以下に名詞述語文の例を挙げておく。いずれも、発話時点の時間(の経過)を表現している。

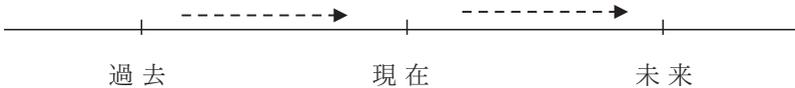
- 33 八点半了。(8時半になった)
34 八个半小时了。(8時間半が経った)
35 初四了。(旧暦の4日になった)
36 四天了。(4日間が経った)

また、時間の推移を表す「已经／都…了（もう既に…になったのに）」という文型があり、cグループの他、bグループの時間名詞も当てはまる。

- 37 已经现在了，她还没来。（もうこんな時間なのに、彼女はまだ現れない）
 38 都这个月了，工资还没发呢。（もう今月だよ、給料は未だに支払われない）

「過去」、「未来」を表す a、d のグループの時間詞は、発話時を基準にして見ると、相対的に「静的」であり、時間的な変化と捉えにくいいため、アスペクト助詞「了」は付かない。よって、述語にも充当できず、述語動詞の連用修飾語としてのみ使われる。

一方、「現在」を表す b、c グループの時点詞と e グループの時量詞は時間軸において、「動的」と捉えることが出来る。これは、時間が進んだ結果、「現在」に至り、さらに今後も進んでいくという「時間の変化」に着眼した結果の現れだと考えられる。



また、複数の時間詞が並列する語、例えば、「早中晚（朝昼晩）」、「白天晚上（昼間と夜間）」、「春夏秋冬」には、「時間の推移」ではなく、「あらゆる時間」という意味が生まれ、同じように「了」も付かず、述語にも充当できず、時間詞の本来の役割、即ち、述語の連用修飾語のみに充当される。

2.3 時間順序の意味を内包する名詞

2.2で述べた時間詞以外にも、「名詞述語文」に当てはまるいくつかの名詞がある。それは「時間順序」の概念を内包している名詞である。例えば、「高中生（高校生）」は高校に進学する前は「中学生」で、高校を卒業後、大学に進学したなら、「大学生」となる。同様に、「科长（係長）」に昇進する前には、「主任」であったが、更に昇進が決まれば、次は「处长（課長）」になる。「年功序列」の役職はまさに「時間」の観念を含む名詞である。

年齢：…二十岁（20歳）二十一岁（21歳）二十二岁（22歳）…

学歴：小学生 中学生 高中生（高校生） 大学生 研究生（大学院生）…

学級：一年生 二年生… …大三（大学三年生）大四（大学四年生）

公務員肩書：科員(平職員) 主任 科长(係長) 处长(課長) 局长(局長) …
 時代：…奴隷社会(奴隷社会) 封建社会 资本主义社会(資本主義社会) …
 王朝：…宋朝 元朝 明朝 清朝 民国 中华人民共和国(中華人民共和国) …

これら時間順の意味を内包する名詞も直接「了」を後接し、時間の変化を表す。例文を以下に示す。

- 39 你都小学五年级了，还要跟爸爸妈妈一起睡啊？
 (君はもう小学校五年生だよ。まだパパママと一緒に寝たいの)
- 40 王贤明早就局长了，怎么还坐这个级别的破车？
 (王賢明が局長になったのはずいぶん前だよ。なんでまだこんなぼろい大衆車に乗っているの)
- 41 社会主义社会了，还敢这样虐待儿媳妇？
 (もう社会主義の時代なのよ。嫁をこんなに苛めるなんて)

2.2と2.3の例から一つずつとって、纏めてクオリア構造を考察してみる。「八点半(8時半)」と「局长(局長)」の意味は主体役割によって規定される。つまりこの2語とも、その成り立ちに時間が関係しているのである。

	八点半(8時半)	局长(局長)
形式役割	{	{
主体役割		
	なる／時間が推移する	なる／昇進する

2.4 動作主名詞

宮島(1997: 157-158)では、「アスペクトは基本的には、動詞のもつカテゴリーである。ところで、具体名詞の意味については、やはり、そこに含まれている動作的要素のアスペクト的性格といったものを問題にすべきである」と問題提起し、更に、「ヒト名詞」を以下の4種類に分類した。

A類：現実の仕手	「…している人」	例：見物人
B類：潜在的な仕手	「…する人」	例：看護婦
C類：経験者	「…したことがある人」	例：犯人
D類：一定の状態にある者	「…している人」	例：病人

同じ分類法の下で、現代中国語の例を挙げる。

A類：观众（観衆） 申請人（申請人） 利用者 観光客（観光客）

B類：司机（運転士） 教员（教員） 爱好者 翻译家（翻訳家）

C類：著者 合格者 创始人（創始者） 毕业生（卒業生）

D類：死者 居民（住民） 遗孤（遺児） 失业人员（失業者）

「ヒト名詞」でも、「中国人」、「黄色人種（黄色人種）」などの修飾部は名詞の場合、その性質は時間と共に変化する訳ではない。上記の4種類の名詞に共通しているのは、構成要素としての修飾部が動詞的な成分を持っていることである。つまり、動作を意図的に行う「動作主（agent）名詞」（影山2011: 65）である。しかし、宮島（1997）のこの分類法では、「行為の実行が潜在的であるBを除いては、A、C、Dの区別がつきにくい」という問題点がある。そこで「動作主名詞」についても、クオリア構造による分析を試みる。

	作家	作者
目的役割	〔書く〕	〔書く〕
主体役割		

例えば、「作家」と「作者」、どちらも人間を指すから、形式役割と構成役割は同じであると考えられる。目的役割と主体役割に関しては、袁（2014: 66）で述べたように、作家は著作を職業とする人である。生涯に一度も本を出版したことのない人でも、職業としてその道を選べば、その人は「作家」である。但し、日本一の推理作家なのか、三流以下の作家であるかは、求められる目的機能を果たしている度合いによって評価が分かれる。作家の意味特徴は「本を書く」という目的役割によって規定される「個体解釈（individual level）」であることが分かる。一方、作者は文章を書いた後、初めてその文章の作者と呼ばれる。書くか、書かないかが重要で、「事態解釈（stage level）」の意味が強く、実際に「本を書いた」という主体役割によって規定される。

クオリア構造による分析から、「動作主名詞」は以下の2種類に分類することができる。更に、袁（2012）の付表から抽出した「者」、「家」を語尾とする語を取り上げて観察してみる。

A 个体解釈 恒常的性質 目的役割による意味規定 時間の流れを反映せず

B 事態解釈 一時的性質 主体役割による意味規定 時間の流れを反映する

A 个体解釈 (目的役割による意味規定)

者：記者(記者) 学者 侍者 工作者(従事者) 劳动者(労働者) 革命者(革命児)
家：作家 画家 管家(執事) 作曲家 革命家 登山家 教育家 演奏家
作词家(作詞家) 翻译家(翻訳家) 探险家(探検家) 评论家(評論家)
发明家(発明家) 投资家(投資家) 雕刻家(彫刻家) 观察家(政治評論家)
活动家/运动家(活動家) 演唱家/歌唱家(声楽家) 飞行家(飛行士)
宣传家/演说家(伝播する人) 集邮家(切手コレクター) 投机家(投機家)
收藏家(コレクター) 表演家(役者) 指挥家(指揮者) 预言家(預言者)

…

B 事態解釈 (主体役割による意味規定)

者：作者 患者 著者 使者 生者 死者 读者(読者) 编者(編者)
胜者(勝者) 败者(敗者) 说者(話し手) 听者(聴き手)
侵略者 参加者 管理者 旅行者 落伍者 独裁者 支持者 合格者
爱国者 出席者 成功者 所有者 利用者 保持者 追随者 同行者
演奏者(奏者) 表演者(演者) 统治者(統治者) 来访者(訪問者)
旁观者(傍観者) 受害者(被害者) 消费者(消費者) 先行者(先駆者)
优胜者(優勝者) 创作者(創作者) 叛逆者(反逆者) 失业者(失業者)
创始者(創始者) 牺牲者(犠牲者) 归国者(帰国者) 幸存者(生存者)
来访者(来訪者) 死难者(遭難者) 受灾者(被災者) 入场者(入場者)
崇拜者(崇拜者) 获奖者(受賞者) 拥有者(所有者) 流浪者(浮浪者)
当权者(権力者) 为政者(為政者) 生产者(生産者) 目击者(目撃者)
后来者(後継者) 当选者(当選者) 组织者(主催者) 失踪者(失踪者)
挑战者(挑戦者) 倡导者(提唱者) 讲演者(講演者) 投资者(投資者)
抗议者(抗議者) 追随者(追随者) 改革者(改革者) 竞争者(競争者)
追求者(求愛者) 志愿者(ボランティア) 信奉者/吹捧者(信者)
发起者(発起人) 演唱者(歌う人) 爱好者(愛好家) 参与者(関与する人)
有意者(その意がある人) 与会者(会議の出席者) 爱慕者(ファン)
经营者(経営する人、日本語の「経営者」に対応する中国語は「企业家」)
参赛者(試合の参加者) 肇事者(事件を起した人) …

家：雄辩家(雄弁家) 冒险家(冒険家) …

観察の結果、動作主名詞「V家」は目的役割を表すものが多く、「V者」は主体役割を表す場合が多い傾向が見られた。本質的な相違は前者は恒常的に「V」をする人を表しているが、後者は発話時点で実際に「V」をしている人を表す。それゆえに、後者は以下の下線部の時間表現と共に起できるが、前者にはこれらの時間表現は適用できない。

<u>时代的</u> (時代の)	胜者／叛逆者／先行者／落伍者／成功者 ※收藏家／投资家／登山家
<u>今天的</u> (本日の)	死者／参赛者／优胜者／出席者／肇事者 ※歌唱家／活动家／革命家
<u>一月份的</u> (1月の)	患者／失业者／生产者／来访者／旅行者 ※发明家／探险家／观察家
<u>很长一段时间</u> 的 (長い間の)	失踪者／追求者／流浪者／信奉者／保持者 ※画家／教育家／评论家
<u>一直以来的</u> (絶え間なく)	支持者／崇拜者／追随者／爱国者／爱慕者 ※翻译家／雕刻家／飞行家

2.5 時間の概念が隠れているその他のモノ名詞

2.1では、モノ名詞とデキゴト名詞の違いについて論じたが、全てのモノ名詞がまったく時間の概念と無関係という訳ではない。実は「時間」の概念が隠れているケースもある。袁 (2013: 61) で挙げた「滑冰场 (スケート場)」と「事故现场 (事故現場)」を例にとって、クオリア構造により、再度説明する。

※上周五的滑冰场 (先週金曜日のスケート場)

上周五的事故现场 (先週金曜日の事故現場)

	滑冰场 (スケート場)	事故现场 (事故現場)
形式役割	{ 場所 スケートする	{ 場所 事故が発生する
目的役割		
主体役割		

目的役割で規定されている「滑冰场」は、客にスケートする場所を提供

するのが目的であり、先週の金曜日も今日も、来週の月曜日も（急に倒産しない限り）、いつでも同一機能を保っている。一方、主体役割によって意味が規定されている「事故現場」は、もし事故が発生しなければ、そこは普通の道路であり、建物だったのである。よって、「金曜日」は事故日であると理解される。この類の名詞の成り立ちは、特定の時間にそれが実際に発生したことを意味しているため、時間詞との相性が良い。

場所名詞に限らず、主体役割で規定されるモノ名詞には、時間の概念を含んでいるものがある。例えば、「宠物（ペット）」などがそれである。飼い主の寵愛を受けている間だけ成立し、飼育が放棄されて、捨てられ、野良犬、野良猫になったり、殺処分場に送られたら、ただの「犬」と「猫」になるのである。強いて言えば、「元ペット」である。

また、主体役割で規定される一部のモノ名詞は頻度表現を付与することができる。例えば、店に来る「客人」に対して、昔からの「老客户（得意様）」、しょっちゅう来る「常客（常連客）」、めったに来ない「稀客（珍客）」などと言うことができる。

3. まとめ

3.1 総括

名詞は「空間性を有し、時間の経過と関係のない概念を表す語」と定義されているが、本稿は、現代中国語において、一部の名詞（デキゴト名詞、時間詞、時間順序の意味を内包する名詞、動作主名詞、時間の概念が隠れているその他のモノ名詞）に着目し、名詞が有する時間性について網羅的に考察した。

一部の名詞が時間性を有していること、それ自体は現代中国語だけの特異な現象という訳ではない。本稿は現代中国語における名詞の時間性がどのように、文法特徴として現れているかについて考察し、その結果を以下のように整理した。

(1)名詞には「時制 (tense)」は付かないが、発話時と同じ時に起こったのか、それともそれより以前に起こったのか、それによって差異が生じる。つまり、名詞の「アスペクト (aspect)」が存在する。

(2)現代中国語においては、デキゴト名詞は、顕著な時間性を有し、時間性を反映する6つの構文上の特徴を持っている。

(3)現在を表す時間詞、時間順序の意味を内包する名詞は「了」を後接することができる、時間の推移を示す。

(4)動作主名詞は2種類に分類でき、時間の概念と関わりのあるタイプは時間表現と共起することができる。

(5)モノ名詞も全く時間の概念と無縁ではない。時間の概念が隠れている場合もある。

(6)名詞と動詞は、「モノ名詞→デキゴト名詞→動名詞→動詞」と続く「連続体」である。時間の概念と関わりのある名詞の共通性は、自身が持っているクオリア構造の中の主体役割が意味の規定に強く関与している、ということである。

3.2 今後の課題

本稿は日本語で「サ変名詞」と呼ばれる、例えば、「研究」のような二字漢語（中国語では「動名詞」や「動名兼類詞」と呼ばれる）については、扱わなかった。「モノ名詞→デキゴト名詞→動名詞→動詞」という連続体の中で、動詞に近ければ近いほど、時間性が顕著であることが容易に予想できるからである。今後、これらの動名詞の時間性がどのような文法特徴を有し、構文に現れてくるかについては、別途に考察することとする。

参考文献

- 袁晓今 (2012) 「人間を表す名詞の日中対照研究—「-人」、「-者」、「-家」—を例に」 大阪大学言語文化研究科修士論文
- 袁晓今 (2014) 「現代中国語三音節名詞の構造と意味」 大阪大学言語文化研究科博士論文
- 影山太郎 (2011) 『日英対照名詞の意味と構文』 大修館書店
- 宮島達夫 (1997) 「ヒト名詞の意味とアスペクト・テンス」 川端善明・仁田義雄編 『日本語文法：体系と方法』 ひつじ書房 pp. 157-171
- 韩蕾 (2018) 『现代汉语事件名词研究』 学林出版社
- 沈家煊 (2006) 『认知与汉语语法研究』 商务印书馆
- 袁晓今 (2013) 「物性结构理论在汉语研究和教学中的应用」 『现代语言学』 2013(2) pp. 59-64
- 张斌编 (2010) 『现代汉语描写语法』 商务印书馆
- Givón, Talmy (1984) *Syntax: a typological functional introduction*, vol. 1. Amsterdam:

John Benjamins. p.51

J. Pustejovsky (1995) *The generative lexicon* Cambridge: MIT Press

R. Langacker (1991) “Nouns and Verbs”, *Concept, Image, and Symbol*. Mouton de Gruyter. pp. 24-25

现代汉语名词的时间性

袁 晓 今

摘要

“空间性”是名词的特征，而“时间性”则是动词的基本特征。但我们发现现代汉语中存在着一些名词有显著或隐秘等不同程度的时间性。本文系统地探讨了名词中与时间概念有关的“事件名词”、“时间词”、“内含时间顺序的名词”、“施事名词”、“隐含时间概念的其他实体名词”这五种情况下的反映在句法上的特征，并指出所有这些名词之所以包含时间概念，皆因名词自身的物性结构中的主体角色决定其语义特征这一点，也就是说这些名词语义要求“现实的发生”，所以要求时间概念的配合。关于“名动连续统”中里最靠近动词的“名动词”的时间性的探讨将作为今后的课题另行撰文。